

## 【声明】

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備について、市長・当局は  
市民や議会の意見を真摯に受け止め、誠実に答えることを求めます

6月11日に開会した仙台市議会第2回定例会が本日26日に閉会しました。

今定例会では、音楽ホール・中心部メモリアル拠点複合施設整備事業がかつてなく議題にのぼり、ほぼすべての会派、多くの議員が質疑・質問項目として取り上げました。市民的な関心が高まっていることの表れです。

2元代表制の一翼を担う市議会として、行政が進める施策をチェックするとともに、市民から寄せられている声や意見を代弁し、施策に反映しようとする多角的に旺盛に議論されたことは重要だったと考えます。

しかし、そうした会派・議員の質疑・質問に対して、市長や当局の答弁は、誠実に欠けると感じられる場面が多々みられました。最大会派からも「説明不足」と指摘されるほどですから、本来であれば、多くの疑問や意見を真摯に受け止め、正確な根拠を示し、誠実に答える責任が求められていたはずです。

今議会においても、膨れ上がる事業費についての上限額はついに示されませんでした。また、2000席規模の「宮城県立劇場」の整備が進む中で、もう一つ、2000席のホールが必要との根拠も不明確なままです。転換型、外観、デザインによって建設費・維持費がどのくらい割増しになっているのかも説明されていません。転換型の舞台・ステージにかかる費用として、67億円との答弁がありました。が、座席部分でいくらのかなど、建設費の詳細な内訳についても、議会に提示できないというのでは、その妥当性を審査することはできません。

さらに、1500席のホールを仙台駅前に整備した場合の事業費について問われたのに対し、「2000席規模で9000平米を必要」とする、市の計画をそのままあてはめた試算を示しました。問いへの答えになっていないばかりか、不正確な情報で、あたかも多額の費用が掛かるかのような印象を与えるなど重大です。

広範多岐にわたる市民意見が寄せられているときに、自分にとって耳触りの良い意見だけをこっそり強調し、現計画を強硬に推し進めようとする姿勢は厳しく問われなければなりません。

今議会の市長や当局の答弁や説明では、到底市民の理解が進んだとは言えず、疑問は払しょくされません。「議会での議論を終えた」ことのみを理由にして、このまま実施設計に入ること、容認できません。

郡市長、市当局においては、今議会における答弁や姿勢を振り返るとともに、市民や議会に対し、誠実な姿勢で臨むよう強く求めます。

音楽ホール等複合施設については、市民の関心は日増しに高くなっており、賛否だけにとどまらず、よりよい施設にしてほしいという提案も多数寄せられています。私たち日本共産党仙台市議団は、市民の知恵と力に依拠しつつ、市民に長く愛され、活用される施設となるように、現計画の見直しと、再構築に今後も力を尽くす決意です。

2026年6月26日

日本共産党仙台市議団

団長 花木 則彰

ふるくぼ 和子、高見 のり子

すげの 直子、吉田 剛